

地質ニュース

昭和45年7月 第191号 1970

特集 夏の北海道を尋ねて

奥尻島めぐり	秦矢島 光澤男	1
大雪火山	国府谷 盛武 明彦	12
道北の自然を尋ねて	北川 芳男	20
阿寒国立公園	佐藤 博之	29

トピックス 地球の宝庫を開く 鉱物資源と機器展

顕微鏡下の岩石 ~溶結凝灰岩①~	砂川 一郎	46
	小野 晃司 野井 義郎 佐藤 芳治	40

海外事情 トルコの地質と石炭資源 ~地形と地質の概要~

井上 英二	48	
地学と切手	P. Q	45
学会掲示板	45	

編集 地質調査所

表紙の写真

発行 株式会社 実業公報社

黄銅鉱 Chalcopyrite $CuFeS_2$ の耳付き双晶

秋田県阿仁鉱山産 桜井標本 倍率 約×5

外国産の黄銅鉱の標本といえば、たいいてい塊状標本で、結晶標本は至って少ない。この点で、黄銅鉱の美しい結晶標本が珍しくない日本は、世界中の例外である。結晶が多だけでなく、晶相の種類に富んでいる点でも群を抜いている。中には世界中で日本にしか見出されないような晶相や双晶もみられる。いわゆる三角式黄銅鉱や、この表紙の耳付き双晶はその例である。

耳付き双晶は、黄銅鉱の2つの結晶が(111)面を双晶面として貫入双晶したものである。双晶の様式自体は決して珍しいものではないが、兩個体の相互関係から、まるで主体の結晶の両側に耳が付いているような外形をとっている点でたいへん変わっている。時には、耳の部分にまた小さな耳がついているものもあるし、母体と耳との形が違っているものもある。この種の特異な黄銅鉱の双晶は、東北地方内帯の金属鉱脈に限って産出し、世界中この地方にしか知られていないようである。

(文 砂川一郎 写真 正井義郎)